

## キャリア支援室（Career Services Office）活動報告

国際教育交流センターアドバイジング部門キャリア支援室

坂井伸彰・大河内薫子

### 1. はじめに

国際教育交流センター・キャリア支援室は、外国人留学生、G30国際プログラムに所属する学生、および海外留学や国際経験を持つ学生の就職・キャリア支援を担当している。本稿では、当室における2016年度の活動について、「個別相談」、「教育プログラム」、「社会連携」、「学内連携」に分けて紹介し、最後に次年度の実践に対する課題や展望を「まとめ」として報告する。

### 2. 個別相談

2016年度の学生からの個別相談件数は計559件であり、前年度の相談件数200件と比べ大幅に上昇した。留学生に対し、当室の広報活動を学内で強化したことが奏功し、相談件数の増加に繋がったと考えられる。相談内容の傾向（参照：表1）は、「書類（エントリーシートや履歴書等）添削」が一番多く、198件であった。書類の添削については一度で完成するものではなく、根気強く添削を繰り返しながら完成させる必要があり、同じ相談者から複数回にわたり相談を受ける傾向がある。次に相談が多かったのは「面接試験に関する相談」で、142件であった。当室では、個人面接、集団面接、グループディスカッションの3種類の面接試験に対する支援を行っており、相談者との模擬面接の実施に加え、質疑応答時の回答案の検討等、幅広く支援を行っている。このように当室に寄せられる個別相談は、学部4年生や修士2年生に対する書類添削や面接練習など、就職活動に伴う具体的な支援が半数以上を占めている。

### 3. 教育プログラム

表2は、2016年度に当室が主催した名古屋大学の留学生を対象としたキャリア支援に関する取組みであ

る。その中でも特筆すべき内容について、以下のとおり紹介したい。

#### <留学生のための就職・キャリア支援プログラム>

2016年度名古屋大学「留学生支援事業」採択プログラムの助成を受け、次年度に日本での就職活動を控えた学部3年生・修士1年生を対象としたワークショップを、10月から2月にかけて全16回実施し、延べ348名が参加した。終身雇用制度や新卒一括採用など日本企業特有の雇用文化に関する情報提供、自己理解及び職業理解の進め方、ビジネスマナーの実践、内定を取得した先輩留学生を囲んだ座談会、現在日本企業で活躍する元留学生によるセミナーなど、多様な取組みを実施しつつ、参加する留学生同士が交流を深められるよう同プログラムを実施した。



写真1：「留学生のための就職・キャリア支援プログラム」の様子

#### <金融業界研究&東海地区企業との交流会>

株式会社大垣共立銀行の協力の下、金融業界について理解を深め、東海地区の企業と交流を図るための企画を2016年11月2日に実施した。当日は21名の留学生が参加した。同行の移動型店舗や支店見学を行った後、東海地区に本社のある5社（服部株式会社、ムトー精工株式会社、光生アルニウム工業株式会社、西

表1. 2016年度 国際教育交流センター・キャリア支援室 相談件数

1位	書類（ES, 履歴書等）添削	198件
2位	面接対策	142件
3位	インターンシップ相談	56件
4位	進路相談（卒業後のキャリア全般に関する相談。主に就職活動を実施する前の学部3年生以下及び修士1年生が対象。）	52件
5位	今後の就活の進め方（就活開始後）	46件
6位	アルバイト相談	20件
7位	その他	20件
8位	内定後の懸念事項（住まい・ビザ・内定先との連絡等）	11件
9位	内定報告	7件
10位	内定辞退（オワハラ相談含む）	7件
合計		559件

表2. 2016年度 キャリア支援室主催 教育プログラム一覧

事業名	実施日	項目	内容	人数
留學生のための 就職活動支援コース  2016年10月～2017年2月 毎週木曜日（計16回）  延べ348名参加	2016年10月27日（木）	オリエンテーション	就活の進め方・スケジュール・情報共有	39名
	2016年11月10日（木）	内定者座談会	留學生の先輩から就職活動の進め方を学ぶ	26名
	2016年11月17日（木）	業界理解講座Ⅰ	各業界の成り立ちや最新動向を学ぶ	23名
	2016年11月24日（木）	業界理解講座Ⅱ		19名
	2016年12月1日（木）	業界理解講座Ⅲ		17名
	2016年12月8日（木）	自己分析講座	留學生の方によく聞かれる企業側の質問を元に、自らの「ありたい姿」を考える	31名
	2016年12月15日（木）	業界・企業分析講座	留學生に求められる業界・企業分析について学ぶ	21名
	2016年12月22日（木）	就職活動進め方講座	今後の就職活動の進め方を整理する	23名
	2017年1月12日（木）	マナー研修	日本特有のビジネスマナーを学ぶ	30名
	2017年1月18日（水）	留學生×中部経済同友会 意見交換&懇談会	同友会加盟企業関係者が留學生が交流を図り、日本での就職や企業文化に対する理解を深める	27名
	2017年1月19日（木）	面接対策講座	集団（グループ）面接及び個別面接への対策を知る	29名
	2017年1月26日（木）	OB/OG 座談会	日本企業で活躍する留學生の先輩から、日本で働くことについて理解を深める	11名
	2017年2月13日（月）	エントリーシート実践講座	各内容について、就職活動解禁前にもう一度、実践的な練習を踏まえ理解をさらに深める	21名
	2017年2月14日（火）	グループディスカッション実践講座		14名
	2017年2月15日（水）	面接実践講座		17名
	2017年2月20日（月）	本番直前！留學生のための 業界理解講座	就職活動を直前に控えた外国人留學生のための業界理解講座	24名
金融業界研究会& 東海地区企業との交流会	2016年11月2日（水）		金融業界について理解を深め、東海地区の企業と交流を図る	21名
東海地区・伝統産業 体験プログラム	2016年12月3日（土）		東海地区の伝統工芸の製作工房を訪問し、伝統産業への理解を深める	27名
	2017年2月14日（火）			40名
私の就職活動 (内定者を交えたランチ ミーティング)	2016年10月19日（水）		内定を獲得した先輩留學生の就職活動について話を聞くことで、今後の進路や就職活動の参考とする機会	7名
	2016年11月30日（水）			1名
	2016年12月14日（水）			3名
	2017年1月25日（水）			2名
Career Café	2016年10月26日（水）		進路未決定者のための、相談ランチミーティング	3名
G30教養科目 「Introduction to Career Development Theory」	2016年10月～1月 (計15コマ)		キャリア理論、問題解決の方法論に関する講義	履修者 22名

濃運輸株式会社、オリザ油化株式会社)の企業説明や質疑応答の時間を設けた。併せて、企業交流会を実施し、留学生が実際に企業の方と会話をしながら、日本の会社や働き方などに対して理解を深める場を設定した。

#### < 留学生×中部経済同友会交流会 >

「留学生のための就職支援プログラム」の一環で実施した本交流会(2017年1月18日実施)は、中部経済同友会からの協力の下、同会加盟企業の関係者(15社、計32名)と名古屋大学の留学生(計27名)が交流を図り、留学生が日本での就職や日本特有の企業文化に対する理解を深めることを目的に開催された。今年度は、留学生と企業関係者の混合チームを6つ編成し、グループディスカッション(テーマ「より多くの外国人(留学生、観光客、就労者等)に中部を訪れてもらうにはどうすべきか」、「日本を海外へ発信するにはどうすべきか」、「日本で外国人材がより活躍できるようにするためにはどうすべきか」)を実施し、そのディスカッション内容について留学生より発表を行なった。学生への事後アンケートでは、「このような機会は非常に貴重なため後輩にも是非勧めたい」等という意見が多く寄せられた。



写真2：「留学生×中部経済同友会交流会」の様子

#### < 留学生のための業界理解講座 >

主要業界の動向を理解するための講座を「留学生のための就職支援プログラム」に組み込み、就職活動を直前に控えた外国人留学生を対象に2017年2月21日に実施した。本講座では、東海地区を代表する各業界の

主要企業4社(中部国際空港株式会社、東邦ガス株式会社、株式会社十六銀行、株式会社MTG)の人事担当者を招聘し、計24名の学生が参加した。講座の前半では、各社より各業界に関する動向について説明頂いた。その後の質疑応答では、「企業は、留学生のどのような所に期待しているのか?」、「入社後、どれくらい残業しなければいけないのか?」、「ブラック企業の見分け方とは?」、「仕事を通じた“やりがい”とは?」等、会場の留学生達から日本企業での就職に関する率直な質問が多数寄せられた。本講座は、終了時刻を大幅に延長して実施する形となり、留学生の採用に感心を示す企業側と留学生との間で活発な意見交換が繰り上げられた。

#### < 東海地区・伝統産業体験プログラム >

留学生に対するキャリア教育の一環として、東海地区の伝統工芸の製作工房を訪問し、伝統産業への理解を深める体験プログラムを実施した。2016年度は有松絞をテーマに、12月3日に留学生27名と共に工房を訪ね、工芸師6名と交流を深めた。留学生は有松絞の製作過程を学習し、有松絞の海外における販売戦略について意見の交換を行なった。その結果、参加者アンケートでは回答者全員より同行事に「満足した」と回答を得ることができた。また、2017年2月14日には、国際プログラム部門が主催する短期留学プログラム(NUSTEP)の講座と連携し、合計40名の留学生が参加し、その取組みが中日新聞<sup>1</sup>に取り上げられた。



写真3：「東海地区・伝統産業体験プログラム(有松絞体験会)」の様子

<sup>1</sup> 2017年2月15日中日新聞夕刊21頁「名大留学生 有松絞を体験」

#### <「私の就職活動」(内定者を囲んだランチミーティング)>

当室の初めての試みとして、海外留学室と協力し「私の就職活動」(企業より内定を取得した外国人留学生と就職活動を検討している外国人留学生及び留学に関心のある一般学生が交流を図るランチミーティング)を、10月～1月に月1回のペースで開催し、計4回延べ13名の学生が参加した。内定を取得した留学生(日本人学生も1名参加)を招き、自身の就職活動について後輩達に話をしてもらおうようにした。昼休みの時間を活用し和やかな雰囲気を実施することで、活発な意見交換が生まれ、今後就職活動を控える参加学生にとり、有益な時間となった。

#### <正課授業「Introduction to Career Development Theory」>

G30学生対象文系教養科目として後期に開講している「Introduction to Career Development Theory」(2単位、使用言語:英語)を、工学部西山講師及びレイト講師と共に担当した。履修者22名に対し、日本を含めた各国の雇用文化、「Career Anchor」や「Planned Happened Theory」等のキャリア理論に加え、問題解決の方法論に関する講義を行った。本科目では、留学生や帰国生などの国際学生達が、今後の学生生活や卒業後の生き方・在り方を探索することに役立つ取組みを意識的に多く取り入れた。

## 4. 社会連携

#### <企業等訪問及び来訪対応>

東海地区を中心とした企業及び公共団体への訪問及び来訪対応を、延べ84件(計54社・団体)行なった。また、当室に求人票を提供した複数の企業(中部地区の企業を含む)のうち、就職を希望した留学生達に提出書類及び面接試験に対する個別指導を手厚く行った結果、採用に至るケースが相次いだ。当室に求人票を提供した企業の中には外国人留学生を初めて採用する企業ではあったが、企業側にも外国人留学生だからこそ採用したいという機運が高まりつつあると感じる。

当室に相談に訪れる外国人留学生達は、主に民間企業が運営する就職情報サイトを通じて就職先の選定を行い選考試験に挑んでいる。即ち、企業側は一般学生(日本人学生)と外国人留学生等の国際学生とを区別せ

ず採用活動を行なうため、外国人留学生は日本人と同じレベルの日本語力を求められる傾向がある。一方、当室の求人情報の利用をすれば、留学生だからこそ採用したいという東海地区の企業情報を入手でき、効率的に就職活動を進められる利点があることを、今後も留学生たちに周知したい。

#### <大学間連携>

##### ・7大学就職支援担当者による研究会への参画

2016年度国際機構プロジェクト事業の助成を受け、国際教養大学、早稲田大学、一橋大学、日本女子大学、同志社大学、大阪大学及び名古屋大学の就職支援に携わる教職員による研究会に計4回参加した(就職相談室、学生支援課室の教職員と交代して参加)。この研究会では、海外留学帰国生、外国人留学生をはじめグローバルに活躍したいと願う一般学生への就職支援に関する各大学の取組みを適宜共有している。現在、これらの7大学と協働して、2017年7月に上述の7大学の学生をはじめ、全国15大学の学生を主な対象とした企業交流会の実施に向け、具体的な準備を進めている。

##### ・国立大学就職キャリア支援担当教職員研修会

北陸・東海地区代表幹事として、2ヶ月に一度、名古屋大学就職相談室と共に域内10国公立大学の教職員が参加する情報共有会に参加し、各大学で抱える就職支援に伴う課題を共有した。同研修会の全国地区代表幹事と連携して、2017年8月及び12月に東京で実施する全国大会の企画・運営の準備を進めている。

## 5. 学内連携

#### <就職支援室、就職相談室との連携>

学生支援課就職支援室及び学生相談センター就職相談室が毎週月曜日に実施する定例会に、本年度より当室員も参加した。就職支援に関する各種教育プログラム、学生相談、企業来訪対応など、適宜情報の共有を行い、連携体制の強化に努めた。

また、就職支援室が2016年7月に主催した学内企業選考会や、2017年3月に480社を集めて行なった学内企業研究セミナーにも参加し、外国人留学生、一般学生を問わず来場した学生に対する就職相談員として個別相談に応じた。

#### <G30教員との連携>

G30担当教員と連携し、G30在籍学生を主な対象とした卒業後の就職・進路に関するセミナー（使用言語：英語）を10月8日に実施した。学内外の発表者12名を招き、他大学の学生を含め計52名の学生が来場した。企業への就職に加え、大学院進学に関する情報提供の機会を設け、卒業後の進路に関する幅広い情報を提示することができた。

ということもあり、周囲との関係を構築しながら、当室の活動計画を策定した。次年度以降は、個別相談のさらなる充実を図り、教育プログラムの進化・拡大を目指して参りたい。特に、留学生に不足しているインターンシップの機会を、地元企業と連携しながら創出したいと考えている。このような取組みを推進するため、部門内及び他部門との連携をさらに強化して、留学生に対する就職・キャリア支援の拡充を図り、名古屋大学の国際活動の進展に寄与したい。

## 6. まとめ

今年度は筆者（坂井）が名古屋大学への着任初年度